

いいもの成らせるさくらんぼ便り

Vol.8 暑さに気を付けながら、園地環境を改善しよう！

- ◎ さくらんぼの樹は、すでに来年の花芽をつくり始めています。
- ◎ 充実した花芽をつくるために、園地環境を見直しましょう！

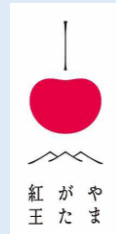
1 はじめに

- ◆ 結実は、概ね平年並みを確保した園地が多かった一方で、不足した地域も見られました。「佐藤錦」の収穫期後半は高温により果肉の軟化が見られ、品質が低下しました。

→ **今年を振り返り、次年度に向けて、対策を実行しましょう！**

【安定生産に向けた方向性】

- 防霜対策の実施： 散水氷結法・燃焼法・防霜ファンなど
- 受粉樹の導入： 複数品種を導入する、園地内の受粉樹の割合を高める
- 「佐藤錦」の後半の品質低下対策：
 - ・「佐藤錦」に偏りすぎているか品種更新を検討
(果肉の硬い「紅秀峰」「やまがた紅王」の割合を増やす)
*9月下旬まで「やまがた紅王」「紅秀峰」の大苗を募集中です。
 - ・もぎきれだけの労働力の確保



2 今後の管理について

良い花芽をつくるために・・・

- ① 来年の貯蔵養分を確保する → **基肥・かん水**
- ② 健全な葉を維持する → **防除の徹底**
- ③ 園地・樹の光環境を改善する → **縮間伐・夏季剪定**

(1) 基肥・かん水

- ◆ **基肥は、根が活動している9月上旬～中旬に施用しましょう。**
 - ・ 礼肥で施用した年間施肥量の残りを施用し、貯蔵養分を十分に蓄えさせましょう。
 - ・ 樹勢が低下した樹には、完熟たい肥の施用が有効です。
- ◆ **高温が続いています！土壌が乾燥している場合はかん水を！**
特に、幼木は根域が浅いので状況に応じかん水を行うとともに、根元に有機物を敷いて乾燥を防止する（裸地にしない）。

(2) 病害虫防除の徹底

- ◆ **ハダニ類** ⇒ 多い部分は補助散布。**特に、今年は高温のため注意！**
※高温乾燥時は、頻繁な草刈りを避け、刈る場合は高刈り。
- ◆ **褐色せん孔病** ⇒ 発生状況に応じて、さらに1～2回程度散布。
※落葉し始めた園地が見られてきました。
- ◆ **カイガラムシ類** ⇒ 幼虫の孵化が最盛期となる8月中旬に、1～2回散布。

(3) 縮間伐・夏季剪定 (光環境の改善)

◆ まずは、改善が必要かどうか、園地や樹の状況を確認しましょう！

縮間伐や夏季剪定の必要がない園地・樹



- ・ 樹冠内部にもチラチラ光が差し込んでいる園地。
- ・ 隣接樹との余裕がある園地。
- ・ 樹勢が適正～弱い樹。

縮間伐や夏季剪定が必要な園地・樹



- ・ 樹冠下に光が届かない園地・樹。
- ・ 大枝が多く、樹冠内部が暗い樹。
- ・ 樹の上部が大きく、下部の日当たりが悪い樹。
- ・ 樹勢が強い樹 (強勢な枝や徒長枝の発生が多い樹)。

◆ 始めに・・・隣同士の樹の枝が重なっていたら ⇒ 縮伐・間伐

→ 「永久樹 (優先する樹)」を決め、そうでない樹を縮間伐。

◆ 次に・・・樹冠内部が暗い樹、特に樹勢が強い樹では ⇒ 夏季剪定

【夏季剪定の注意点】 (必須作業ではありません！)

- ・ 樹勢が適正な樹、弱い樹、十分明るい樹・園地では行わない!
- ・ 剪定は最小限に! ノコギリを主体とした間引き中心の大枝整理のみとする。
- ・ 気温が高い時期に剪定を行うと、日焼けや双子果の発生を助長する場合があるため、8月下旬以降に行う。

◆ 成木の樹冠下に苗木を定植した場合

→ 成木の縮間伐を行いましょう。

(右図: 苗木の真上に被さっている大枝を縮伐)

「やまがた紅王」の苗木を成木の樹冠下に植えていませんか?
日当たりが確保できているか要確認!

※ そのままにしておくと、樹冠拡大が遅れ、収量が確保できません。



熱中症には十分注意! 必ず休憩と水分補給を行いましょう!!

村山総合支庁農業技術普及課 ・ 西村山農業技術普及課 ・ 北村山農業技術普及課

TEL:023-621-8270

TEL:0237-86-8301

TEL:0237-47-8631

山形さくらんぼブランド力強化推進協議会(事務局:農林水産部園芸大国推進課・農業技術環境課)